

第1回 超高齢社会の到来に向けた地域包括ケアシステムのあり方検討会議 議事録

【会議概要】

日時： 令和元年6月10日（月）14：00～16：00

会場： ソリッドスクエア東館3階 健康福祉局会議室

出席者：

■委員（五十音順） ※敬称略

- 石山麗子（国際医療福祉大学大学院 医療福祉経営専攻教授）
- 落合明美（一般財団法人高齢者在宅財団企画部長）
- 金井利之（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
- 後藤 純（東京大学高齢社会総合研究機構特任講師）
- 坂元 昇（川崎市看護短期大学学長）
- 柴田範子（特定非営利活動法人楽理事長）
- 関口博仁（公益財団法人川崎市医師会副会長）
- 中澤 伸（社会福祉財団法人川崎聖風福祉会事業推進部長）
- 堀田聰子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）

欠席者：

- 秋山 美紀（慶應義塾大学環境情報学部教授）

■オブザーバー

- 手塚光洋（川崎区地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）所長）
- 瀬戸成子（幸区地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）所長）

■事務局

- 健康福祉局地域包括ケア推進室（ケアシステム担当、地域福祉担当、地域保健担当、専門支援担当）
- こども未来局児童家庭支援・虐待対策室、こども未来局総務部企画課（地域包括ケア推進室兼務）
- 健康福祉局長寿社会部（高齢者事業推進課、高齢者在宅サービス課）
- 健康福祉局保健所健康増進課
- 市民文化局コミュニティ推進部協働・連携推進課

■傍聴人の数 2名

議事：

1. 本市におけるこれまでの地域包括ケアシステムに向けた取組について
2. 超高齢社会の到来に向けた地域包括ケアシステムのあり方検討会議設置の趣旨
3. 戦略的広報のあり方の検討について
4. 地域マネジメント手法の検討について
5. これからのコミュニティ施策の基本的考え方について
6. 統計からみる本市における地域包括ケアシステムに関する現状と課題

7. 地域包括ケアシステムのあり方検討会議の進め方、スケジュールについて
8. その他

【議事要旨】

(1) 本市におけるこれまでの地域包括ケアシステムに向けた取組について

資料 2「川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組」に基づき、事務局より説明。

(2) あり方検討会議設置の趣旨

資料 3「超高齢社会の到来に向けた地域包括ケアシステムのあり方検討会議の設置について」に基づき、事務局より説明。

(3) 戦略的広報のあり方の検討について

資料 4「地域包括ケアシステム構築に向けた戦略的広報についてのガイドライン」に基づき、事務局より説明。

- ・ 地域包括ケアはゴールが見えないという点が住民にとって難しい。昨年度は「いかに住民の暮らしに寄り添っていくか」という概念がどうすれば伝わるか、市民団体等と議論を行った。(後藤委員)
- ・ 地域包括ケアをどのような切り口から伝えれば市民の認知度・理解度を上げ、住民同士で考えることを促せるのか、検討しているところである。(地域包括ケア推進室)
- ・ 近年、地域の中に支援が必要な人や所得格差が存在する中で、それらの人を地域で支える必要があるという意識が住民の中でも広がってきていることを感じている。その結果として、徐々に地域共生的なアクションが自発的に生まれ始めている。(柴田委員)
- ・ パンフレットのタイトルが「みんなで作る街づくり」と未来志向であるが、内容を見ると必ずしも未来志向ではない部分もある。行政が作るパンフレットとして、「困らないようにセーフティネットを用意する」というトーンから「住民皆で作っていこう」というトーンに変化できるか、が難しいところである。地域包括ケアという切り口からこのテーマに取り組んでいる果敢さは素晴らしい。(堀田委員)
- ・ パンフレット「みんなで作る街づくり」は、チャレンジ的なリニューアルであったと認識している。各所からの意見を多く取り入れ、至るところに工夫がある。内容については広く意見をいただき、今後の改善に取り入れたい。(地域包括ケア推進室)
- ・ 「みんなで作る」とあるが、相談を受ける側の視点も重要である。専門職等も線引きをせず、「みんなで作る」という意識を持つことが必要である。(中澤委員)
- ・ 「住まい」を整備することで、住民が前向きに暮らすことができる。「住まい」の議論内容をもっと広報媒体に反映させるのが良い。(落合委員、柴田委員)

(4) 地域マネジメント手法の検討について

資料 5「地域マネジメントの手法整理について」に基づき、事務局より説明。

- ・ コンパクトシティという集中型の概念でまちづくりが進められる中で地域包括ケアという分散型の概念が折り合いをつけ共存していくためには、高齢者の普通の暮らしを守るといった観点が重要であると考えている。自立支援型のケアプランという方向性に向けて、住民側から地域包括ケアとの接点を探ることを狙いに据えてモデル構築に取り組んでいる。(後藤委員)
- ・ 地域包括ケアシステムはシステムではあるが、ケアマネジャーが個別ケース検討の中で本人資源(人に紐づく地域資源)をアセスメントする視点、そこから派生して住民同士のつながりを醸成する視点が重要である。(石山委員)
- ・ 今後さらに外国人の住民が増えるということを考慮し、より国際的な仕組みを整備すべきと考える。(石山委員)
- ・ 外国人の住民の対応については、今後検討すべき視点と認識している。(地域包括ケア推進室)
- ・ 全世代対象の地域包括ケア推進ビジョンとはいえ、具体的なケアマネジメント手法が高齢者向けに若干偏っている。全世代対象のアクション検討まで行うことは難しいが、住宅部局の情報集約など、より幅広く情報収集・地域診断を行うことで、より多世代向けに補完された手法になると思われる。また、企業市民を巻き込んだ多世代施策も検討できると面白いのではないかと。(堀田委員)
- ・ 地域マネジメント推進における住民参加のワークショップは日中開催のため、若年層が参加しづらいという点はある。(後藤委員)
- ・ ワークショップをやるとソフト面だけではなくハード面の話も出るため、区で持ち帰り検討している。多世代交流のメリットは感じており、少しずつ取組を進めていきたいと考えている。(地域包括ケア推進室)

(5) これからのコミュニティ施策の基本的考え方について

資料6「これからのコミュニティ施策の基本的考え方について」に基づき、事務局より説明。

- ・ 川崎市は、南北で地域性が非常に多様である。住民がそれぞれの地域に対して抱いているイメージを地域づくりに繋げ、地域包括ケアとも連携させたい。(中澤委員)
- ・ ソーシャルデザインセンターで各区独自の取組について検討していくことにしている。(市民文化局協働・連携推進課)
- ・ 高齢者施策にフォーカスした内容ではなく総論の議論がなされているが、次回以降で詳細な検討が行われるのか。(関口委員)
- ・ 次回以降、テーマ毎に、より絞った内容について掘り下げて検討したい。(地域包括ケア推進室)

(6) 統計からみる本市における地域包括ケアシステムに関する現状と課題

資料7「統計からみる本市における地域包括ケアシステムに関する現状と課題について」に基づき、事務局より説明。

- ・ 死亡場所に関連して、監察医制度のある東京都のデータを参考にすると、川崎市では、5年前のデータではあるが年間約1,000人ほどが看取りをされることなく亡くなっている可能性があると考えられる。(坂元委員)
- ・ 在宅医療の需要推計値については、入院医療の需給状況の変動に大きく影響を受けるので、考察にあたっては地域医療構想のデータの精査も必要である。(坂元委員)
- ・ データをより精緻にみる必要がある。在宅医療ニーズで言えば、85歳以上は外来受療率が低下するというデータもある。また、退院後の状態を追跡しニーズを分析する等の視点も考えられる。(堀田委員)
- ・ 要介護状態になると、在宅医療のニーズが伸びるというデータがある。団塊の世代が後期高齢者になるにあたって考慮すべき事象ではないか。(地域包括ケア推進室)

(7) あり方検討会議の進め方、スケジュールについて

資料8「地域包括ケアシステムのあり方検討会議の進め方、スケジュール(案)」に基づき、事務局より説明。

(8) その他

- ・ これから進めていく川崎市のビジョン・施策に関する議論を参考にし、川崎市立看護短期大学の4大化に向けて地域包括ケアに資する看護人材の育成に結び付けることを目指したい。(坂元委員)
- ・ 地域包括ケアの中の医療というと、在宅医療と認知症中心になるが、海外では認知症は医療からケアへシフトしてきており、医療の関わりも変わってくると考える。(関口委員)
- ・ 在宅医療のメリットは大きい。在宅医療ニーズ自体が減ることはないが、多職種連携が上手くいくかは議論が必要である。(関口委員)
- ・ 地域包括ケアシステムの構築に向けて、熱心な取組が地域で展開されていることを改めて確認できた。国の教育に関する検討の場面に関わっているが、かなり厳しい状況にあると感じている。地域とのつながりに関する意識については、年代ごとの格差もあり、こうした取組を拡げていくには、時間との勝負とも感じる。(金井委員)
- ・ 昨年度の厚労省事業で明らかになったことだが、これまで高齢者を支えてきたのは子世代であったが、孫世代が支える傾向が出てきている。広報戦略でも意識できるとよい。(石山委員)

【その他】

次回の検討会議は8月7日(水)17:00~20:00に開催する。

以上